**説教20230507一ヨハネ3：18-24ヨハネ14：15-21「真理の霊」**

**子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。**

**このヨハネの手紙１の言葉は、誰が誰に向けて言っているのでしょうか。それは、主イエスが私たち人間全員に向かって言っているのです。もちろん目に見える形では、説教者が聴衆に向かって語ったり、教会学校の教師が集まった子供たちに向かって語ったりするのですが、私たちは信仰によって、このお勧めを、キリストの御言葉として受け取ることが出来るのです。この手紙を書いたヨハネ自身も、キリストの言葉を伝えているのですよということを知ってもらいたくて、手紙の冒頭で次の様に明言をしています。**

**初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触れたものを伝えます。すなわち、命の言について。――**

**この命は現れました。御父と共にあったが、わたしたちに現れたこの永遠の命を、わたしたちは見て、あなたがたに証しし、伝えるのです。――**

**キリストを信じるということは、このヨハネの言葉を喜んで聞いてキリストの言葉として受け入れるということです。そうして、聞いた私たちも、最後のキリストの時に、キリストを見て、手で触れるという希望に生かされ、歩んで行くということです。**

**永遠の命の言葉であるイエスキリストは「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。」と言われています。この様に言われている言葉も、そしてイエスキリストも、今ここでははっきりと目にすることが出来ないので、私たちは歯がゆい思いもしますけれども、又、目に見えないからこそ、そのイエスの御言葉を信じて歩んで行こうという気持ちになるのではないでしょうか。**

**現代社会では、全ての物事を、今ここで可視化してわかり易く示していこうということが、良いことととして広く受け入れられていますが、イエスキリストはそうではありません。キリストの愛が完成する最後の時迄、キリストの姿は、人間の目からは隠されたところに居られて、見ることが出来ないのです。**

**皆さん、今迄人生を送って来られて多かれ少なかれ、お分かりのことと思いますが、偽りの喜びは目に見えた時に失われ、そして本当の恐ろしさは目に見えない底なしの暗闇の内に潜んでいるのです。**

**それゆえ、私たちが、愛が完成する最後のキリストの時迄、キリストと顔をあわせないまま、その信仰と希望と愛とを保たれ続けるということは、何にも代えがたい幸いなことであります。**

**とはいえ、私たちはこの地上での歩みにおいて、キリストの愛に生きる喜びを、少しずつ目に見える形で味わうことが出来ます。そしてキリストの愛に生きる喜びと言うのは、そんなに大げさな物事ではないのです。ただ、今日冒頭で紹介したキリストの言葉、「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう」といったキリストの言葉を、静かに聞いて、ただ素直に受け入れていくだけで、私は十分に幸せであります。**

**さてイースターと言うのはイエスキリストが復活をされたお祭りの日でありまして、今年は４月9日の日曜日でありました。それでこの復活の喜びがこの一日で終わるのではなくて、それから毎朝ごとに、イエス様が私の処にもよみがえって来てくだいまして、私を決して見捨てず、みなしごにはして置かれないのです。**

**「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう」というこの御言葉は、まず第一に、よみがえりのキリストと私とが向き合わされて愛し合うということが前提でありまして、そのことがないと、この御言葉は世の中で広く歌われ行われている世俗的な歌謡曲と変わりがなくなってしまうことでしょう。**

**今日は、花の日礼拝ということで、花に現れた目に見えるキリストの喜びを語りたいのですが、ここまでは見えないことを中心に語って参りました。。「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう」というキリストの御言葉は、一輪の花と私、という関係のうちにも適用されることでありましょう。この私もそしてこの一輪の花も、イエス様が造られた一被造物であります。ですからどちらもキリストの子たちなのです。「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう」。花と言うのは一般的に言葉をしゃべりませんから、花と愛し合うというのはかえって実現しやすいのではないでしょうか。私は先週の火曜日から木曜日まで、福岡での九州教区総会に行っておりまして、その間、教会の玄関口に置かれたプランターの花々に水をやることが出来ませんでした。そして、金曜の夕方戻ってまいりましたら、花と葉っぱが　しなしなになって、涸れたようにしおれていました。私は焦って直ちに水をやりましたが、その夜は、どうかその花々が枯れずに生き返ってくれと祈っていました。そして朝になったら、くきもしっかり立って、草花が元気を取り戻して姿を見せてくれましたので、うれしかったです。**

**詩編/ 90編5-6節**

**あなたは眠りの中に人を漂わせ／朝が来れば、人は草のように移ろいます。**

**朝が来れば花を咲かせ、やがて移ろい／夕べにはしおれ、枯れて行きます。**

**私たちの肉体もそうですが、神は、草花をはかなくしおれ枯れるものとしてお造りになりました。それはなぜでしょうか。それは、はかないもの同士だからこそ、キリストの愛によって愛し合い、ますます朽ちないキリストの愛に深められるようにとのキリストのお勧めなのだと思います。**

**先週の説教ではキリストの愛が、羊飼いと羊という大変見やすくわかり易い関係に喩えられて語られました。「主は私の羊飼い。私は乏しいことがない。主は私を緑の野に伏させ 憩いの汀に伴われる。」（詩編23：1-2）聖書のあちこちで語られる羊と羊飼いの親密な関係に私たちも生きる時、命あるかぎり 恵みと慈しみが私を追う(23:6)ようになる、と主イエスは言われます。**

**この様に、キリストの愛は勿論、人間の間にも実現しますし、人と花、そして人と動物の間にも実現されていく、大きくて深い愛であります。**

**ヨハネの手紙は19節以下で、**

**これによって、わたしたちは自分が真理に属していることを知り、神の御前で安心できます、心に責められることがあろうとも。神は、わたしたちの心よりも大きく、すべてをご存じだからです。**

**といってキリストの計り知れない大きさを述べていますが、その大きさ故に神様とのつかみどころや接点を失ってしまう私たちに向かって、キリストは、実際に実行できる愛の業を一つ一つすすめて下さっているのです。**

**ここまでキリストの愛のお勧めの御言葉を淡々と語って参りましたが、愛し合うことに容易ならざる状況が訪れた時が、実はこの御言葉の真理が表される時であります。**

**先週の説教でいえば、羊と羊飼いの前に、狼が登場する場面であります。**

**――狼は羊を奪い、また追い散らす。――**

**現実に実現した愛の関係は、狼によって危うくされます。そこに恐れや悩みや苦しみが訪れます。私たちはそんなかき乱す狼を打ち滅ぼすべきでしょうか。イエス様はそのようには勧められません。狼からみんなで逃げ去れとは言われますが、狼を殺してしまえとは言われないのがイエス様です。**

**そして、狼も又、父なる神が造られた１被造物なのですから、イエス様のお勧めは、つまるところその狼をも愛しなさいということなのです。**

**有名な御言葉を引きましょう。**

**マタイによる福音書/ 05章44-46節**

**しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。**

**あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。**

**自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあろうか。徴税人でも、同じことをしているではないか。**

**いわゆる、汝の敵を愛しなさい、という有名な聖書箇所でありますが、今日の「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。」という御言葉も、敵をも愛するということを含んでいなければ、意味が薄くなってしまいます。**

**私たちは、この人は愛せそうにないなあという人を強いて愛することによって、愛を深くされ拡げられ、キリストの大きな愛により近づくことが出来ます。究極的には、キリストが私たちのために、十字架上で命を捨てて下さったその神の愛に近づいていくことが出来るのです。**

**今日の聖書箇所では、互いに愛し合うということが一つの掟として言い表されています。掟と言うと固い言葉ですが、掟と言うのは約束と言い換えることも出来ます。「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。」ということがイエス様と私たち人間との間に交わされている約束事なのです。**

**この約束事は、今は見えないところに居られるイエス様が、人間達を用いて、次の世代へと語り継ぐようにと託された約束事であります。**

**そして、私たちがこのことを語り継ぐことが出来るように、イエス様は別の弁護者と呼ばれる、真理の霊を、私たち一人ひとりの内へと送って下さり、真理の霊と共に私たちが歩むことが出来るようにして下さいました。真理の霊即ち聖霊は、私たちがこの世に生まれ落ちた時に、肉体に自ずと備わっているものではなくて、この様にして教会や、或いはクリスチャンたちとの交わりの場において、それに満たされて、飲み込まれていく霊であります。**

**聖霊と言うのも又、見えないがゆえに計り知れない力と憐れみを備えていて下さり、私たちが聖霊を私たちのうちにお迎えする時、私たちはよみがえりのキリストの命にあずかることが出来るのです。そして、「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。」という御言葉を一つ一つ実現して下さるのも、この聖霊によることであります。私たちは聖霊に満たされれば満たされるほど、より深く広く相手を愛することが出来るようにされます。**

**聖霊は、神から出た霊であり、この世から出た霊とは違います。この世から出た霊は、愛を語っても、尽きることのない愛をもたらすことが出来ません。**

**ヨハネによる福音書14章19節以下**

**しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる。**

**かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内にいることが、あなたがたに分かる。**

**真理の霊である聖霊は、今は目には見えませんが、最後のかの日にその姿を顕し、私たちが行いをもって愛し合ってきたことの実りを目に見える形で与えて下さいます。**

**その時迄、私たちは、キリストの光に照らされて、キリストの愛の道を踏み外すことなく、御言葉の通りに愛し合いながら、聖霊に満たされ導かれて、守られて歩んで参りたいと願います。**

**祈り**

**父なる神よ、今、この地上において、ウクライナやスーダンなどで戦闘が続いています。どうか私たちを憐み、あなたの平和をお与えください。**

**戦い、争いは、見えないところでもたくさんあります。戦い、争いによって、ことに弱い立場の人々、子ども達が傷つけられています。その現状を、あなたが顧み、癒しと慈しみの御手を差し伸べて下さいますように。**

**私たちが戦い争いに巻き込まれることなく、常に真理の霊に満たされて、愛し合うことを行っていくことが出来ますように。**

**今やこの地上は一つの場所となり、様々な情報が世界を飛び交っています。その一つの世界に私たちが、御子イエスの御言葉を告げ知らせていくことの幸いを覚えます。この地上に置かれている全ての教会が、協力し、御子において心を一つとされて、その喜びの福音を、この世界に告げ知らせていくことが出来ますように。**